

6月に新社長就任・社名変更、新体制でスタート 定評ある現場力でホテルの総合建築に邁進

(株) K GRIT (ケイグリット／旧：(株)カナガワファニチュア)



(株)K GRIT
建築事業部部長
菅井久典氏



(株)K GRIT
代表取締役
井藤元希氏

レジャー・ラブホテル分野で豊富な建築・施工の実績を有してきた(株)カナガワファニチュアが、2017年6月、井藤元希氏が新社長に就任し、社名を(株)K GRIT (ケイグリット)に変更した。レジャー・ラブホテルは、いま市場環境が大きく変化している。そのなかで同社は、従来以上に積極的に取り組むという。同社の社名変更の経緯と現状および今後の方向をレポートする。

創業は大正10年 家具製造から建築施工へ

同社の創業は、大正10年だ。東京・浅草で桐タンス等の家具製造販売を開始し、昭和26年には銜金川家具店として法人化。その後、家具販売店の多店舗化も進めていった。

そのなかで、ホテルへの家具販売では設置工事も求められ、それが内装施工を手掛けるきっかけだったという。社内に内装施工部門を設け本格的な取り組みを開始したのは約40年前だ。以降、レジャー・ラブホテルの内装施工の業務が拡大していった。

レジャー・ラブホテルの非日常空間を施工するには、細部にわたって高度な技術が求められる。そこで、同社の長年にわたる家具製造で培われた、とくに木工の技術力による丁寧で高品質な仕上げが、設計事務所や経営者から高く評価されたのである。さらに同社は、数年前から、内装施工だけでなく躯体工事も含めた総合的な建築企業として業容を拡大してきた。

同社が、カナガワファニチュアという社名にしたのは平成4年。ただ、この名称は「カナガワ＝神奈川県」、「フ

アニチュア＝家具」というイメージを与えてしまい、内装および建築を主要業務とする企業として、社名の変更が求められていたという。そこで、今年6月、前社長・井藤憲次氏が会長に退き、井藤元希氏の新社長就任を機に、社名の変更に至ったのである。

新社名の「K GRIT」(ケイグリット)は、K＝前社名カナガワファニチュア(同社の歴史・伝統を引き継ぐ)、GRIT＝不屈の精神、やり抜く力、という意味が込められた名称だ。

さらに「GRIT」には、G＝GRID(空間)、R＝RIPPLE(輪、義理人情)、I＝IMPROVE(改善、向上)、T＝TOGETHER(仲間、一緒)、という意味がある。これは「義理人情を大切に仲間、関係会社、お客様の輪を広げる。技術と人格の向上を目指し学び続けられる環境を提供する。仲間とその家族が「働いてよかった」と思える会社を目指す」という同社の企業理念を表しているのだ。

高い現場力をベースに 施主の要望を形にしてい

現在、レジャー・ラブホテルの市場環境は大きく変化してきている。そのなかで同社は、どのような取り組みをしていこうとしているのか。

井藤元希新社長は、1973年生まれの44歳。28歳で自社に入社し、不動産部門、建築部門(現場監督、営業)、経理部門を経て、2013年開業の自社レジャー・ラブホテルの責任者も経験。一級建築士、管理業務主任者、宅地建物取引士の資格も有している。

井藤氏は「現場の技術力は高い評価をいただいておりますが、市場環境が大

きく変化している現在、それだけでは不十分です。経営者の方々が本当に求めている施工とは何か。経営者の視点を従来以上に重視して、今後も儲かるレジャー・ラブホテルづくりのサポート企業として建築施工に取り組んでいきます」という。

また、「この2、3年、改装の件数は増加していますが、改装コストは抑えられる傾向が強い。この背景には、他の業種業態にもいえますが、変化のサイクルが非常に速くなっていることがあります」(井藤氏)と指摘する。

従来のように、大きな投資で非日常空間を構築できるケースは限られる。とはいえ、クロス等の表層変更だけでは、改装効果は弱い。6月に建築事業部部長に就任した菅井久典氏は「従来のような改装コストがかけられなくても、例えば、家具・ベッド・ソファ・テーブル等の配置の見直しで、使い勝手や快適性の大幅向上ができるケースもあります。こういった視点での客室の見直しも大切です」という。

同時に、改装においては工期も重要だ。改装オープンが遅れば事業計画に影響してくる。「工事期間はもちろん、計画から着工までのスピードも重要。見積りや建材・職人の手配などの速さも評価されています」とも菅井氏は語る。近年は、職人不足、建材不足が指摘され施工費の上昇も続く。このような状況でスピーディかつ確実な改装を実現するには「現場を監督する社員の能力と数、同時に信頼関係のある協力業者の数が重要」と井藤氏は指摘する。同社の社員の現場監督力は定評があり、同時に、これまでの実績から信頼関係

■(株) K GRIT の建築・施工例



(設計・監理：(株)KOGA設計)



頭文字である「K」は前社名カナガワファニチュアのこれまでの歴史や伝統へ敬意を表している。

「GRIT」にはこれまで引き継がれてきた「やり抜く力」と「G」「R」「I」「T」それぞれの文字に理念を踏襲した想いが込められている。

G	GRID 格子 = 空間	空間造りのプロとして、お客さまにとってよりよい空間を提供しよう。
R	RIPPLE 波紋 = 輪	義理人情を大切に、仲間、関係会社、お客様の輪を広げていこう。
I	IMPROVE 改善・向上	技術と人格の向上を目指して、学び続けられる環境を提供しよう。
T	TOGETHER 一緒・仲間	仲間とその家族が「働いてよかった」と思える会社を目指す。

で結ばれた数多くの協力業者を有していることも同社の特徴だ。

さらに、自社ホテル経営も建築施工業務に大きくプラスになっているという。追加投資の仕方や事業収支はもちろん、利用者の使い勝手や管理・メンテナンスのしやすさ、建材等の経年劣化の度合い等々、細部にわたってホテル側の視点で、その実際がわかり、施工へのフィードバックはもちろん、改装計画時に経営者視点で相談に乗ることができるというのだ。

今後のレジャー・ラブホテルに関して、井藤氏は「従来のカップルユースだけではなく、観光・ビジネス客も取り込むホテルなど、多様化が進んでいくでしょう。また、従来路線であっても、商圏環境や利用者層によって利用のされ方や客単価も大きく異なっています。商圏と自社店舗を的確に判断してコストを最大限に有効活用する改装内容がさらに重要になります」という。さらに「市場環境が厳しいとはいえ、儲かるレジャー・ラブホテル事

業は今後も可能です。現場の施工力・監督力のさらなる向上を進め、経営者視点での施工を重視していきます」と語る。今後の改装において、同社の建築施工に取り組む姿勢は、さらに注目度が高まるといえるのだ。

【問合せ】
(株) K GRIT
 千葉県船橋市宮本 9-11-1
 TEL.047-432-4321
 FAX.047-437-4320
<http://kgrit.co.jp/>